

2025 年 1 月 6 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～熊本市内の小学生を対象とした海事講座・海事産業見学会に協力～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し、海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しています。

12 月 20 日（金）に、九州運輸局熊本運輸支局の主催する、熊本市立本荘小学校の 5 年生 12 名を対象とした海事産業見学会に協力しましたので、その模様をお知らせします。

はじめにバスで熊本港に移動し、熊本フェリーの協力のもと、高速カーフェリー「オーシャンアロー」に乗船し、熊本港～島原港間を往復しました。出航の前後には、甲板に多くのかもめが集まり、児童たちは間近を飛ぶかもめに楽しそうに餌をあげていました。出航後は、船内のブリッジ（操船を行う場所）や乗用車 51 台が乗船可能だという車両甲板を見学しながら、夫々の設備について船員の方から説明を受けました。



（上段左）出航前の甲板にはかもめが大集合



（上段右）自由時間に、甲板から海を眺める児童



（下段左）
機関長直々に、
航海計器について
説明

（下段右）
船長席から、
前方の安全確認！

船内見学の後、児童たちに事前配布した当協会提供の資料をもとに日本の海運の重要性について、当協会担当者より説明しました。島国日本は、貿易量の 99%以上を海上輸送に頼っており、船なくして日々の生活は成り立たないことや、航路図を見せながら日本と世界中の港がつながっていることを説明しました。また、今回乗船した「フェリー」以外にも、運ぶ荷物によって様々な船種があることも紹介しました。



海運の重要性について、グラフを用いて説明



船の基礎知識について説明する JMU 担当者

フェリー下船後は、ジャパン マリンユナイテッド（以下 JMU）有明事業所に移動し、造船所での見学会を実施しました。

はじめに JMU 担当者から、船と海運業の基礎知識について学んだ後、造船業界における環境問題への取り組みの一つとして、JMU が設計中のアンモニア燃料アンモニア輸送船が紹介されました。

その後、有明事業所の概要とあわせて、JMU 有明事業所で撮影された造船工程を紹介する映像を視聴し、喫鉄（ぎょうてつ）と呼ばれる作業によって船首や船尾などに使われる鉄板にカーブをつけることや、ゴライアスクレーン（船のブロックの搭載に使われるコの字型のクレーン）によって巨大な部品をミリ単位で調整しながら船台に設置することを学びました。



有明事業所は、JMU 最大の造船工場

質疑応答の時間には、「どうやって船を引き渡すのか」という児童からの質問に対し、「契約から引き渡しまでは通常 2〜3 年かかる。引き渡しは JMU 有明事業所の岸壁で行われ、（船主の手配する）乗組員が乗船し、オーストラリアやブラジル等に荷物を積みに行く。」と担当者から回答があり、児童たちは造船・海運への理解を深めていました。

講義のあとは、JMU 職員の方の説明を聞きながら、バスで造船工場を一周し、車内から、部品を運搬するための台車が動いているところや、大小様々な部品が設置されている様子等を見学したほか、作業中のゴライアスクリーンも見ることができました。その後ドックを徒歩で見学し、巨大な船が組み立てられる様子を間近で見た児童たちは、造船業の迫力とダイナミズムを体感したようでした。



ヘルメットをかぶって、いざ造船所見学へ！



(左) 巨大な船を前にして、その迫力にびっくり！



(右) 担当者の説明に真剣に耳を傾ける児童たち

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運をはじめとする海事産業がより教育の場で取り入れられるよう、各種活動に取り組んでまいります。

以上